
宇宙からの使者

麻未夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

宇宙からの使者

【Nコード】

N1043P

【作者名】

麻未夢

【あらすじ】

宇宙人の存在が珍しくもなくなった今日この頃。私は宇宙人と、同居する事になった。誰も戻ってこない、この家で。

宇宙人が気軽に地球観光に来るようになって、早半年。さすがに地球に住む人々もその状況に慣れつつある昨今、私は自宅に一人の宇宙人を下宿させる事になった。

その宇宙人は人型だ。そして、彼らに性別があるかどうかは解らないが、地球人感覚で言えば、少なくとも男性型であるように私の目には映った。

十分程前に急に降り出した豪雨で、頭のでっぺんから足の先まで完全にならず濡れになってしまった宇宙人さんを、ひとまず玄関に留め、私は大慌てでタオルを取りに行った。

「お世話になります」

手渡したタオルを受け取って頭や顔を拭いつつ、宇宙人さんはそう言って深々と頭を下げてくる。

「食事は一緒に良いのかな」

「はい、好き嫌いはありません」

好き嫌いを聞いたわけではないのだけれど、つまり何でも食べられるということなのだろうと、私は勝手に納得した。

宇宙人さんをバスルームに案内しておいてから、私は弟の部屋へと急ぎ、ドアを開くと真っ直ぐクローゼットへ向かう。それから、迷うことなく弟がよく着ていたシャツとジーンズを出してくると、それを持って、またすぐにバスルームへと引き返した。

「これ、弟の服なんですけど、よかつたら着てください」

「弟さんの服を、勝手に着ても良いんでしょうか」

「良いんです、もう戻ってこないから」

宇宙人さんはそれで納得したのか、頷いて礼を言った。私はそん

な宇宙人さんに、今度は父が使っていたバスタオルを棚から出してきて手渡す。

「父のだけど、ちゃんと洗ってますから」

「お父さんのタオルを、勝手に使っても良いんでしょうか」

「良いんです、もう戻ってこないから」

そして、宇宙人さんがシャワーを浴びている間に食事の用意をしようとして、私はキッチンに向かった。

そこで母のエプロンを身につけて、母のお気に入りの皿をテーブルに並べると、なんだか懐かしいような楽しいような気分になってきて、私は鼻歌を歌いだす。

すると、その浮かれたメロディに誘われたのか、弟の服を身につけた宇宙人さんが、少し笑いながらキッチンへとやってきた。

「素敵なエプロンですね。それに、このお皿も綺麗だ」

「母のエプロンに、母のお気に入りのお皿なんですよ」

「お母さんのエプロンや皿を、勝手に使っても良いんでしょうか」

「良いんです、もう戻ってこないから」

宇宙人さんは、そこで少し悲しげな視線を私に向けたけれど、何も悲しい事のない私はその視線の意味が分からず、ただ曖昧に笑って首を傾げてみせるだけ。そんな私に、宇宙人さんは、何でもないと云う風に首を横に振ってから、最後にこんな事を訊いてきた。

「僕は、この家において良いんでしょうか」

「良いんです、もう誰も戻ってこないから」

「家族が戻ってはこないという事は認識しています。ただ、半年前の事故で家族全員を亡くしたという認識は、全くないようですね」
シャツとジーンズを身につけた青年が、白衣を着た初老の男性にそう報告する。

「これが、彼女の部屋で見つけた日記の写しです」

青年から数枚のコピー用紙を受け取り、そこに視線を落とした初老の男性は、その日記の冒頭を読み上げた。

宇宙人が気軽に地球観光に来るようになって、早半年。さすがに、地球に住む人々もその状況に慣れつつある昨今、私は自宅に一人の宇宙人を下宿させる事になった。

その宇宙人は人型だ。そして、彼らに性別があるかどうかは解らないが、地球人感覚で言えば、少なくとも男性型であるように私の目には映った。

そこまで読み上げて、白衣の男性は顔を上げて青年を見る。

「この宇宙人というのは、君のことかね？」

「おそらく」

「……入院手続きをとろう」

「どうやって連れてきます？」

青年の質問に、白衣の男性は簡単な事だと笑う。

「宇宙旅行へ連れて行くと言っても言ってやればいいさ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1043p/>

宇宙からの使者

2010年12月4日22時32分発行